

## 第 334 回研究報告会 (10 月 30 日)

「英語メディア・文献にみる天理教海外伝道の歴史と展開  
—船場大教会のロンドン布教と『The Daily Chronicle』の  
「Tenrikyo: The Gospel of the Pure in Heart」—」

尾上貴行

本研究報告会では、まず最初に、天理教外の研究者による天理教研究について網羅的に検証している文献として大久保昭教氏の『外国人がみた天理教』(天理教道友社、1973 年)を参照し、主だった研究者による天理教に関する文献を確認した。

その上で、天理教の海外伝道の草創期に、ロンドンの現地新聞に掲載された天理教に関する記事に注目し、当時の天理教がどのように受け止められていたかについて考察した。1910 年、船場教会(現大教会)から 3 人の布教師がロンドンへ渡り、布教拠点「倫敦教宅」を設置して、布教活動を展開したことはよく知られている。同教会では、イギリス人に天理教の教えを紹介するために、*History, Doctrine & Practice of Tenrikyo* (Osaka, Japan: Tenrikyo Senbakyokwai, 1910) (以下、『英文天理教』)作成した。1912 年、この『英文天理教』に関心をもった新聞記者クラレンス・ルック (Clarence Rook) 氏は、現地新聞紙『デイリー・クロニクル』(*The Daily Chronicle*) の 3 月 23 日号に天理教に関する記事“Tenrikyo: The Gospel of the Pure in Heart”を寄稿した。天理教は「キリスト教の一派である」というようなキリスト教に基づいた理解が、その内容から読み取れる。さらに、ルック氏がクリスチャン・サイエンス(教えのなかで「病気治し」が説かれている)の信奉者であり、天理教の「病気たすけ」に関心を持ったためか、この「病気たすけ」や「八つのほこり」が、特に詳しく取り上げられている。

また本報告では、望月小太郎氏(政治家で英文通信社の経営者)による *Japan To-day; a Souvenir of the Anglo-Japanese Exhibition held in London 1910* (Tokyo: The Liberal News Agency, 1910. 邦題『現時の日本』)にある天理教紹介文“Tenrikyo (A Sect of Shintoism)”(699～702 頁)も取り上げた。これは、1910 年にロンドンで開催された「英国博覧会」を記念して、日本の宣伝・紹介用に出版された約 900 頁におよぶ大著である。その内容から、望月氏は、国家間・日英関係という視点から天理教の紹介を試みたと考えられる。

このような英文での天理教紹介や天理教に関する記事を、天理教の布教師や信者たちは大変な関心を持って受け止めていた。ロンドンで布教活動を行っていた高見庄蔵、正信藤次郎の両氏は、ルック氏の記事を読んで、「教外者から英語による教理の説き方を教えられた」(梅谷忠一『英国布教ハ天ノ指命也』天理教船場大教会、2010 年、18 頁)と述べている。また『英文天理教』の日本語訳が、1910 年 9 月号から 12 月号まで『みちのとも』で「英文天理教抄訳」と題して掲載され、そのちに要望があり『英文天理教』と邦訳の『訳文天理教』として販売されている。

報告に引き続き活発な質疑応答が行われ、大久保昭教氏の『外国人がみた天理教』のような研究を継続する重要性を改めて確認した。

## 第 335 回研究報告会 (11 月 30 日)

「新型コロナウイルスとコロナピア」

清水直太郎(天理教コロナピア出張所長)

標記研究会を第 2 会議室にて開催した。コロナピアから帰参中の清水所長を発題者に迎え、コロナピアにおける新型コロナウイルス感染拡大の影響についてお話をうかがった。

ウイルス感染が拡大する中、3 月にはロックダウンがあり、その期間中に人々ができたこと・できなかったことがあった。外出の規制は厳しく、所有する自動車のナンバーや ID カードの末尾番号及びその組み合わせによって外出日が決められ、出張所では、2 週間に 1 度の買い出しとなった。また、トケ・デ・ケダという外出禁止令が出されたり、レイ・セカ(禁酒日)が設けられた。プロトコル(衛生上の約束事)は職種ごとに細かい指示があり、その指示に従った衛生対策を施した上で、衛生対策書を行政に届け出て検査を受け、それに通過しなければならない。例えば、入口にはアルコール消毒液を設置するが、それは足踏み式で、手で直接容器に触れないで済むような造りになっている。出張所でも 10 台を導入した。宗教施設・宗教活動についてのプロトコルでは、例えば、おつとめなど、人が集まる場合には、30 人以内・30 分～50 分以内と決められたようだ。すでにこのプロトコルに従って衛生対策書を提出し、許可を得たカソリックの教会があり、30 分以内の短いミサを行っているという。出張所は、この対策書を作成中で、提出はまだしていない。出張所の日本語教室や空手教室は、オンライン(Zoom)を使って継続して教室を開いている。

こうした新型コロナウイルスによる状況をどうとらえるか。親神のメッセージとして、今こそ先人の歩んだ信仰の原点を思い、戦争はなく、食べ物や電気・水もある今に感謝し、おたすけに邁進することができるのではないかと、清水所長は述べた。その後、活発に質疑応答があり布教や信仰について再考する機会となった。(堀内記)

## 『グローバル天理』 合本、バックナンバーについて

2016 年以降に出版された『グローバル天理』の合本を頒布しています。これは各 1 年分(12 号分)を 1 冊にまとめ、簡易製本したものです(頒価は 200 円)。またバックナンバーも、希望者に無料でお分けしています。

ただし、合本はご注文を受けて製本しており、またバックナンバーは在庫を確認する必要がありますので、希望される方は、必ず事前に電話、FAX、もしくは E メールでご連絡くださるようお願いいたします。

なお、お持ち込みによる『グローバル天理』の合本はしておりませんので、予めご了承ください。

問い合わせ先:

〒632-8510 奈良県天理市柚之内町 1050  
天理大学 おやさと研究所『グローバル天理』編集部  
TEL・FAX 0743-63-7255  
E-Mail: oyaken@sta.tenri-u.ac.jp